（別紙4）　　平成 28 年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3691900017		
法人名	医療法人　守章会		
事業所名	グループホームリリーハウス		
所在地	徳島県三好郡東みよし町中庄538番地1		
自己評価作成日	平成28年9月9日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人　徳島県社会福祉協議会
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地　県立総合福祉センター3階
訪問調査日	平成28年10月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

グループホームが開所して、2年目である。吉野川に近く、自然豊かである。ユニバーサルデザイン適合証交付を受け、安全で安心し、快適に利用出来る施設である。法人の運営する医療機関と連携を図り、24時間体制である。新設者を受け入れ、育成を行っている。取り組み方針である、スタッフ1人ひとりが高い志をもち、利用者中心の介護をしている。利用者の出来る事、したい事に着目してその人らしさを引き出せる様な関わりを持ち支援している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

事業所は、吉野川のほとりの田園に囲まれた自然豊かな場所に位置している。居室や廊下の窓からは、山々などの季節の移り変わりを楽しむことができる。事業所では、高齢者や障がい者などの特定の人専用の建物という考え方ではなく、介助者にも配慮したユニバーサルデザインの考え方を取り入れている。ユニバーサルデザインを取り入れたトイレや浴室等は、利用者の安心で安全な生活のための工夫であるとともに、職員の介助のしやすさと身体的負担の軽減にも繋がっている。管理者と職員は、利用者がのびのびと生活することができるよう居心地の良い環境づくりや対応に配慮し、地域に根ざしたより良い事業所となるよう取り組んでいる。協力医療機関と密に連携を図り、日頃の健康管理の徹底や緊急時を含めた24時間の対応が可能な体制を構築している。職員間で、成年後見人制度や日常生活支援事業の理解を深めて活用し、利用者が適切なサービスを利用することができるよう他機関との連携や支援に努めている。

Ｖ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
		○	2. 数日に1回程度
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）		1. ほぼ全ての職員が
		○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項　目	自己評価　グループホームリリーハウス 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に基づいた支援ができるように、毎日の朝礼で唱和している。また、利用者、職員がいつでも見えるように、理念を共有空間、事務所に貼っている。	事業所では、地域密着型サービスの意義や役割を踏まえ“利用者の尊厳と自立・利用者中心の介護・生活を共有して寄り添いの介護”という理念を掲げている。理念を事務所に掲示したり、引継ぎ時間帯に職員間で唱和したりして共有化を図っている。職員採用試験の際には、管理者から理念を説明している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所の行事は地域の自治会や老人会の代表や運営推進会議のメンバー等に案内状を出している。地域の行事にも積極的に参加している。	利用者と職員で、地域の運動会や幼稚園児の銭太鼓の練習の見学に出かけている。地域住民に事業所で花火大会や流しそうめんをする際には、地域住民に参加を呼びかけるなどして交流を図るようにしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議において日々の生活の中での支援の様子を紹介することで地域に向けた認知症に対する理解を進めていく。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	自治会、老人会の代表や公的機関の職員などの参加で、事業所の取り組みやサービスの状況などを報告し、会議の中で出た意見やアドバイスを、サービスの向上に活かしている。	2か月に1回、運営推進会議を開催している。地域住民の代表者や利用者の成年後見人、町担当者の出席を得ている。家族から意見を出してもらって、家族アンケート用紙の見直しを行うなどしている。アンケートで出された意見は、会議の出席者間で協議し、意見や助言を得て検討している。また、感染症や身体拘束等に関する勉強会も行っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	広域連合の担当職員には日頃からわからないことや不安な事等、相談させて頂き、助言をいただく等、十分な連携を取り、協力関係を築いている。	管理者や職員が町担当窓口を訪問し、入居相談やケアプランなどについてアドバイスを得ている。管理者は、事業所の広報誌“リリーハウス新聞”を持参し、事業所の活動や取り組みを伝えている。また、県西部県民局などとも連携を図りつつ、サービスの質の向上に取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修などから身体拘束の知識を深め、常に解除方法の話し合いをもちながら、身体拘束をしないケアを行っている。	事業所では、各種会議の機会に身体拘束の弊害等を議題として取り上げ話し合っている。管理者や職員間で、身体拘束の弊害を理解するよう努め、利用者の自由な暮らしを支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	勉強会や研修などで、高齢者虐待の知識を身に付け、何が虐待にあたるのかに注意を払い、意識をしっかり持ってもらい虐待のない介護に務めている。		

自己	外部	項　目	自己評価　グループホームリリーハウス 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	資料を参考に権利擁護に関する制度の理解に努めている。当事業所にも数名制度を利用している利用者様がおり、地域包括センターや社会福祉協議会と連携をとり支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には利用者、家族に納得してもらうまで説明している。また利用を開始してからも、疑問があればその都度、説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置や家族様来訪時に意見や要望をお聞きして、運営に反映させるようにしている。	管理者や職員は、家族の来訪時に話を聞くようにしている。職員は、日頃の利用者との関わりを通じて、意向や希望を把握するようにしている。出された意向や希望は、職員間で話し合うなどしてサービスの質の向上に繋げている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	常に職員の意見や提案を聞き、必要に応じてミーティングを開いたり、個々に話をして運営に反映している。	管理者は、毎日のミーティングや関わりなどを通じて、職員のケアに対する意見等を聞くよう心がけている。しかし、職員との個別面談の機会を設けたり、職員の意見等を代表者に伝えたりするなどの取り組みは十分とはいえない。	管理者は、職員の気づきやアイデアを運営面に取り入れるよう努めている。しかし、職員一人ひとりが意見や提案を表出するための機会を設けるまでには至っていない。今後は、利用者のサービスの質の向上と、職員にとって働きがいのある環境づくりを実現するためにも、これらのことの整備に取り組まれたい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格手当を設けるなどし、各自が向上心を持って働けるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	経験年数に応じて、社内研修でケアの向上を図り、外部研修への参加する機会を持てるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	認知症実践者研修での実習生の受け入れ以外に同業者との交流の機会がない為、今後他施設への研修を考えている。		

自己	外部	項　目	自己評価　グループホームリリーハウス 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所相談の段階で、本人、家族の困っている事、不安、要望等を聞かせて頂き、安心していただけるようなサービスの提供を行うことで、良い関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の話をよく聞かせていただき、不安を解消できるよう心掛け、信頼関係を築くよう努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	自施設での対応が困難な場合が発生した時には、家族様、本人様の理解を得たうえで、他のサービスの利用ができるよう対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物を畳んだり、テーブルを拭いたり一人ひとりの力に応じた作業を一緒に行ったりして共に暮らす者同士の関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員だけで本人を支えるのではなく、家族にもできるだけ協力して頂き共に本人を支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者様の知人などが来訪された場合、自室へ案内して共に過ごしていただいている。	事業所では、利用者一人ひとりがこれまでに培ってきた社会生活や人間関係について、本人や家族などから聞くようにしている。得た情報は職員間で共有し、利用者一人ひとりの馴染みの関係が途切れることのないよう支援している。家族の協力を得て外出することができるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの性格や、感情の変化を理解し、定期的にテーブルの配置を変えてお互い気持ちよく生活できるよう支援している。		

自己	外部	項　目	自己評価　グループホームリリーハウス 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設へ移られた利用者様のサービス内容は活用できるよう引継ぎを行っている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様一人ひとりの想いや希望の理解に努め、快適な本人本位の暮らしができる様努めている。	日頃から、職員は利用者との関わりを通じて、思いや意向を把握するよう努めている。職員は、利用者が話しやすい雰囲気づくりを行っている。利用者と職員でお茶を飲みながら、何気ない会話のなかから意向を察知するようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日頃からコミュニケーションを通して、可能な限り聞き取りを行い、介護に活かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりに担当職員を決めて、十分な情報収集を行い、個々の有する能力の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	必要な関係者と話し合い、意見などを反映した計画書を作成している。今後できる限り家族にも聞き取りだけでなく会議に参加していただけるよう働きかける。	介護計画の作成時には、利用者や家族の意向を確認するようにしている。医師や看護師、理学療法士、担当職員の意見を聞くなどして、本人のより良い暮らしの実現に向けた計画を作成している。利用者の心身状況の変化に応じて介護計画を見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録の記入や申し送り等で、情報を共有し問題点を把握し実践や改革の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様のニーズに応じて毎月季節の行事を企画している。		

自己	外部	項　目	自己評価　グループホームリリーハウス 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事へのお誘いはいただいており参加可能な入居者様は積極的に参加していただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望を重視し、皮膚科、眼科、歯科などの通院を行っている。通院時には可能な限り職員が付き添っている。	本人や家族の希望するかかりつけ医の受診を支援している。協力医療機関でのリハビリや週1回の訪問看護もある。受診後には、家族と職員で情報共有を行っており、関係者間で介護方針の確認や信頼関係の構築を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護時には、日々の状態を報告し、指示を受けながら適切な受診や看護が受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関とは常に情報交換を行い、入院時にはサマリーなどを提供している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時にある程度の方向性を話し合い、病状の進行具合により、家族を含め医療機関との十分な話し合いを行い対応している。	契約時の段階で、本人や家族に重度化した場合や終末期に関する事業所の方針を説明している。利用者の心身状況等の変化に応じて、かかりつけ医や家族、関係者間で話し合っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルの整備、職員への周知徹底は行えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災に対しては年に2回消防署の協力を得て訓練を行っている。	事業所では、災害対応マニュアルを作成している。年2回、消防署や協力医療機関の協力を得て、避難訓練を行っている。近隣住民にも訓練のチラシを配るなどして参加を呼びかけており、災害時に協力を得ることができるよう努めている。	

自己	外部	項　目	自己評価　グループホームリリーハウス 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様には言葉かけなどに尊敬の念をもって接するようにしている。	職員間で、利用者一人ひとりの人格を尊重するよう心がけており、一人ひとりの尊厳やプライバシーの確保について話し合う機会を設けている。職員は、成年後見人制度の活用や権利擁護の勉強会に参加するなどして、本人の立場に立って支援することができるよう努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望を自己決定に結び付けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一通りの日課はあるが、柔軟な対応で利用者様のペースに沿うようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出や入浴時の衣類は、基本ご自分で選んでいただいている。職員がアドバイスをすることもある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食材に中庭で作っている野菜も使っているので、大きくなるのを楽しみにされ、収穫も職員と一緒にしてくださる。	事業所内の菜園では、利用者と職員で野菜を育てている。収穫した季節の野菜を食材に活用している。利用者と職員で買い物に出かけたり、皮むきなどの下準備をしたりしている。また、ともにテーブルを囲み、和やかな雰囲気のなかで食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを考えて、献立を作り、一人ひとりの食事、水分量は細かくチェックしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとりの力に応じた、口腔ケアの支援を行っている。		

自己	外部	項　目	自己評価　グループホームリリーハウス 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	できるだけオムツを使用しない排泄を心掛けている。一人ひとりの力や排泄パターンに応じ、声掛け誘導を行っている。	職員は、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握するよう努めている。トイレへの誘導時などには、利用者のプライバシーを損なうことのないようさりげない声かけや介助を心がけている。また、トイレの場所が分かりやすいように掲示をするなどしている。日中にはトイレで自立して排泄することのできる方も増えてきており、排泄支援を通じて、一人ひとりの生きる意欲や身体機能の向上を促している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維を多く含んだ食事や水分にも工夫をして摂取量の確保をしている。また、運動なども取り入れ便秘予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週二回の入浴時間帯は決めているが、一人ひとりの希望も聞き都度対応している。	事業所では、ユニバーサルデザインを取り入れた一般浴と特浴を整備するなどして、本人の希望に応じて入浴することができるよう努めている。職員は、利用者の羞恥心や不安感に配慮しつつ入浴支援を行っている。本人の心身状況に応じて清拭や足浴を取り入れるなどして、一人ひとりの意向に沿った支援に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は、個々に居室で休まれたり、ホールでテレビを見て自由に過ごされ、夜間も一人ひとりの意思により休まれる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は処方された薬のリストを確認し、状態の変化を把握できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の生活歴や趣味を把握し、それを生かせるよう支援している。庭の草を取ったり、パッチワークで飾り付けをされたり、洗濯物を畳んだり個々にあった役割をもっていただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には、ご本人の体調や機嫌を確認して散歩に行っている。春と秋には全員で花見や紅葉狩りに出かけている。	利用者と職員で、事業所周辺を散歩したり、量販店へ買い物に出かけるなどしている。一人ひとりの希望にそった外出となっており、なるべく本人の希望を実現することができるようにしている。外出が困難な方にも、デイルームから中庭を眺めて気分転換をしてもらったり、屋外行事に参加したりすることができるようプログラムに考慮している。	

自己	外部	項　目	自己評価　グループホームリリーハウス 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は、基本的には事務所にて預かることとしているが、買い物は希望を聞き職員が行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人が希望した時や家族からの電話には自分で直接話ができるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	手作りのカレンダーを目のつくところに置き、利用者様が月日を意識できるようにしている。ホールの壁には季節に合った飾り付けをして、季節を感じられるようにしている。	事業所の大きな窓からは、暖かな自然光が差し込んでくる。リビング・ダイニングには、季節の飾りつけや利用者が作ったパッチワークを展示しており、家庭的で落ち着いた雰囲気がある。共有空間には利用者が自然と集ってきており、利用者と職員で和やかに会話を楽しむことのできる居心地の良い空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファーを外の景色が見える廊下に置き、運動のために廊下を歩かれる利用者様は、そこで外を眺めながら休憩を取ったりされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に使い慣れたもの、記憶に訴えかけるものの用意をお願いしているが、テレビをもちこまれている方が数名で、ほとんどの方はホームに備え付けのものだけで、他のものは持ち込まれていない。	事業所では、居室に利用者の使い慣れた品物やテレビなどを持ち込んでもらっている。携帯電話を持ち込んでいる人もいる。編み物やパッチワークなどを楽しむ利用者もおり、自由に過ごすことのできる空間となっている。職員は、利用者一人ひとりがその人らしく、思い思いに過ごすことができるよう配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレが認識しにくい方に対しては個別の表記方法を行い混乱せず、わかりやすい工夫をしている。		